

いしかれん だより

第37号

2005. 8

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地
石川県こころの健康センター内
TEL(076)238-5761
FAX(076)238-5762

石家連だよりによせて

加賀神経サナトリウム

院長 菊 知 龍 雄



精神障害者家族会の皆様は色々の悩みを持ち苦勞をしながら長年を耐え忍んでこられました。障害者が自立できない悩み、世の偏見への悩み、

将来に対する不安、それから来るストレスの蓄積等々。障害者自身の悩みとは又少し立場の違う悩みといえましょうか。

今でも偏見は強く残るのですが、30～40年前の家族会立ち上げの頃の状況を知る者としてはその後の世の変化には感無量のものがあります。当時は互いに同じ病院に入院している子供の見舞いに来た家族同士が廊下ですれ違っても夫々横向いてそ知らぬ顔（見て見ぬ振り）をしてすれ違うのが常道（エチケット）でした。身内にその様な病人のあることは“血統”に係わる身内の恥としてひたすら隠し、病者を抱える者同士でもお互いに知らぬ顔を合っていたのでした。昭和39年頃、家族会連合会が初めて立ち上げられた時と思いますが、京都の大きな劇場を満員にして家族の方がこもごも壇上に立ち自分の子供の精神病に

ついて語っておられる姿を拝見した時には状況の激変に感動を通り越して衝撃を覚えたものでありました。

之まで家族会の果たしてこられた役割や直面する課題は色々あります。

今まで口に出せなかった悩みをお互いに披露しあうだけで楽になるという作用は、当初の家族会の主要な役目でしたが此の部分は多少中身が変わったとしても今でも大切な役割でありましょう。そして又治癒への切なる願いから色々の挑戦をし、その中から社会復帰への努力の結実として小規模作業所など一定の成果を挙げてこられました。そうこうするうちに数十年という歳月が経ち父兄の老齡化が大きな問題となってきました。

また日常のやり場のない苦しい思いから鬱積するストレスへの対策なども家族会として取り上げるべき課題になってきております。難しい問題ばかりですが何もしないでは何も解決しません。これだけ難しい状況でも昔に比べれば格段に良いのです。努力したぶんだけ何処かで良くなってきます。家族会を中心にしてやれるだけ頑張ってください。

石川県精神障害者家族会連合会 平成17年度総会開催される

平成17年6月14日 石川県こころの健康センター研修室にて

石家連梶会長の挨拶の中で「障害者自立支援法の制定で通院公費自己負担額が5%から10%に変わることは、全家連の評議委員会でも大きな関心事であった」と述べられました。

総会の議案は決議され、引き続き講演会にはいりました。



平成16年度石家連決算書

(収入)		(円) △は減		
項 目	平成16年度予算	平成16年度決算	差引増減	備 考
県補助金	300,000	300,000		
会 費	720,000	714,000	△ 6,000	会員357人
研修会費	0	344,000	344,000	
組織強化費	140,000	207,000	67,000	全家連等
雑 収 入	1,000	8	△ 992	利息等
繰越金	35,138	35,138		
計	1,196,138	1,600,146	404,008	
(支出)		(円) △は減		
項 目	平成16年度予算	平成16年度決算	差引増減	備 考
事務費	180,000	154,249	△ 25,751	事務費、郵送料
会議費	100,000	96,792	△ 3,208	会場費、生花等
人件費	56,000	56,000	0	5,600円×10日
事業費	660,000	1,097,537	437,537	
家族会活動研修費	(500,000)	(999,887)	(499,887)	研修会、講演会
会報費	(160,000)	(97,650)	(△62,350)	会報の発行 2回
分担金	160,000	155,000	△ 5,000	全国大会等
予備費	40,138	0	△ 40,138	
計	1,196,138	1,559,578	363,440	

決 算 (収 入) (支 出)
1,600,146円 - 1,559,578円 = 40,568円

平成17年度石家連予算

(収入)		(円) △は減		
項 目	平成16年度予算	平成17年度予算	差引増減	備 考
県補助金	300,000	300,000	0	
共同募金配分金	0	73,000	73,000	石家連パンフレット
会 費	720,000	720,000	0	会員360人
研修会会費	0	340,000	340,000	
組織強化費	140,000	140,000	0	全家連等
雑 収 入	1,000	10	△ 990	利息等
繰越金	35,138	40,568	5,430	
計	1,196,138	1,613,578	417,440	
(支出)		(円) △は減		
項 目	平成16年度予算	平成17年度予算	差引増減	備 考
事務費	180,000	160,000	△ 20,000	事務費、郵送料
会議費	100,000	60,000	△ 40,000	会場費、生花等
人件費	56,000	56,000	0	5,600円×10日
事業費	660,000	1,140,000	480,000	
家族会活動研修費	(500,000)	(940,000)	(440,000)	研修会、講演会
会報、パンフレット印刷費	(160,000)	(200,000)	(40,000)	会報、パンフレットの発行
分担金	160,000	170,000	10,000	北信越 全国大会、等
予備費	40,138	27,578	△ 12,560	
計	1,196,138	1,613,578	417,440	

平成17年度事業計画

- 1 平成17年度総会、講演会 平成17年6月14日
- 2 常務理事会 毎月第2火曜日午前
- 3 理事会 年度4回
- 4 全家連評議委員会 平成17年5月31日～6月1日
- 5 単位家族会の支援及び拡大
- 6 石家連パンフレット作成配布
- 7 相談事業の準備
- 8 会報「いしかれんだより」発行 年2回
- 9 いしかれん研修会 能登方面 平成17年7月22日
加賀方面 平成17年7月29日
- 10 北信越ブロック家族会 精神保健福祉促進研修会新潟大会
平成17年9月22日(木)～23日(金)
- 11 障害者ふれあいフェスティバルに参加 県産業展示館
平成17年10月9日(日)
- 12 精神障害者の福祉施策充実に関する陳情・要望活動
平成17年10月
- 13 精神障害者家族会と行政・病院長との懇談会
平成17年11月
- 14 第38回全国精神障害者家族大会へ参加 千葉幕張メッセ
平成17年11月10日(木)～11日(金)
- 15 小規模作業所国庫補助監査
- 16 関係機関・団体との連絡調整、委員会・審議会等に参加
- 17 石川県こころの健康センター及び石川県精神保健福祉協会の行事に参加
- 18 その他

統合失調症の新しい治療概念

平成17年度石川県精神障害者家族会連合会講演会

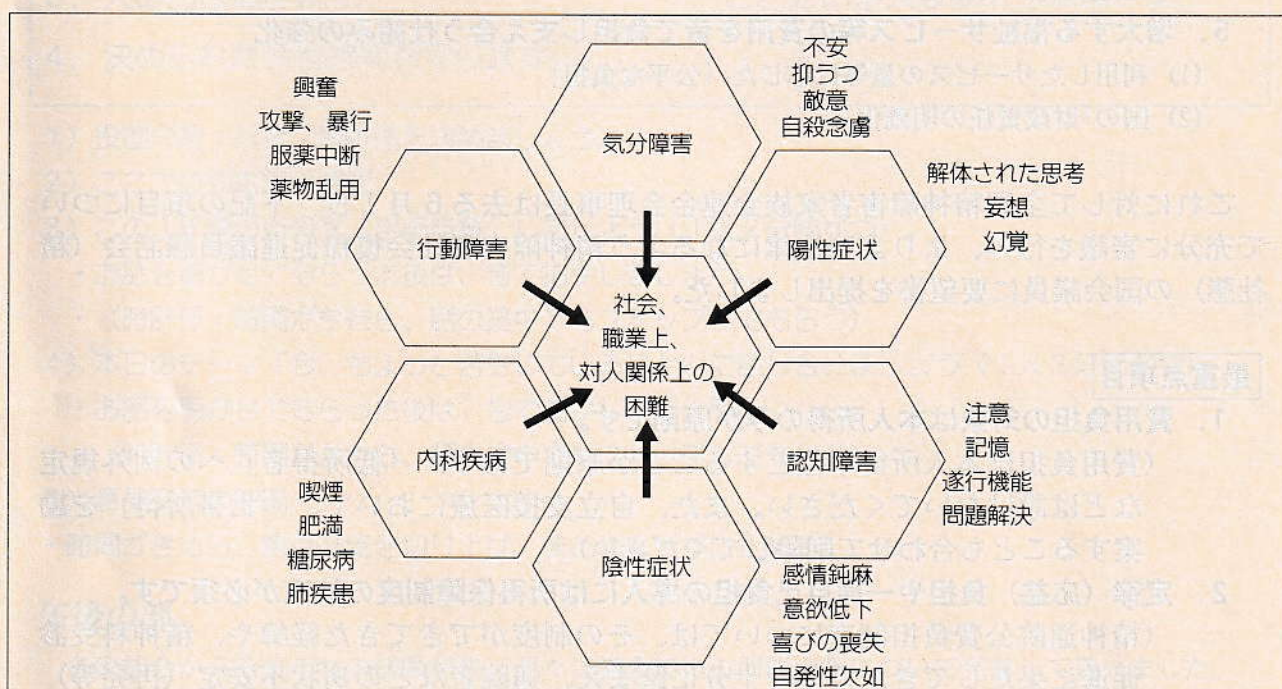
平成17年 6 月14日

講師：岡部病院 副院長 前田 義樹先生

統合失調症治療の基本として、①適切な薬物療法 ②ソーシャルワーカー、看護師、家族等による癒しの精神療法 ③ものの見方、とらえ方がちょっとずれることが多いので、そういう認知機能の改善を目指した心理社会的治療 ④環境を改善する。この4つが基本

です。

急性期の治療は、患者にとって精神科治療の入り口にしか過ぎない。今後、何年、何十年と疾患をマネジメントしていくという大変な作業が残されています。



統合失調症の治療目標は？

- 病的体験の有無より、むしろ問題は、生活をしていけるかどうか？
- どんな形であれ、自分の人生を送っていけるかどうか？
- リハ医療で高めた「出来る能力」の情報を基に、本人が「したい活動」をいかに実行出来るようにするか。
- 基本として、服薬を続けて副作用や再発徴候と対処していく技能が不可欠。

(2005. 6. 14講演会より抜粋)

障害保健福祉施策の改革のポイント

国会で審議されている「障害者自立支援法案」のねらいは以下の内容になっています。

1. 障害福祉（身体・知的・精神）のサービスを「一元化」
（サービス提供主体を市町村に一元化。）
2. 障害者がもっと「働ける社会」に
（障害者が、企業等で働けるよう、福祉側からも支援）
3. 地域の限られた社会資源を活用できるよう「規制緩和」
（身近なところでサービスが利用できるよう、空き教室や空き店舗の活用も視野に入れて）
4. 公平なサービス利用のための「手続きや基準の透明化、明確化」
（支援の必要度合に応じてサービスが公平に利用できるよう、利用に関する手続きや基準を透明化、明確化する）
5. 増大する福祉サービス等の費用を皆で負担し支え合う仕組みの強化
 - (1) 利用したサービスの量等に応じた「公平な負担」
 - (2) 国の「財政責任の明確化」

これに対して全国精神障害者家族会連合会理事長は去る6月1日、下記の項目について十分に審議を行い、よりよい法律になるよう精神障害者社会復帰促進議員懇話会（精社懇）の国会議員に要望書を提出しました。

最重点項目

1. 費用負担の対象は本人所得のみが原則です。
（費用負担は本人所得単位とすることが原則であり、「低所得者」への例外規定などは設けないでください。また、自立支援医療において、「世帯所得」を勘案することも合わせて削除してください）
2. 定率（応益）負担や一律自己負担の導入には所得保障制度の拡充が必須です。
（精神通院公費負担制度については、その制度ができてきた経緯や、精神科受診促進に果たしてきた役割を十分に踏まえ、通院者などの病状不安定（再発等）につながらないように、低所得者に対しては当面5%の自己負担軽減を行う過渡的な措置を行ってください）

重要項目

1. より多くの障害者がサービスを利用できる制度にしてください。
2. 障害特性に配慮した障害認定やサービス支給決定の指標が必要です。
3. 新たな事業体系は現行のサービスを最低限維持できるものとしてください。
4. 障害者やその家族から十分な意見を聞いてください。
5. 市町村に対する専門職員養成を国の責任において早急に実施してください。
6. 「手帳」制度に代表される福祉サービスの統合を維持してください。
7. 障害者福祉予算の本来必要とされる枠組みを再考してください。

石家連の梶会長のコメント

この法律が廃案になっても今後、中身が大幅に変わることはないと思われますので、必要なことは何か、皆で考えて要望してゆきましょう。



ストレスと対処法 ～居場所づくり～

いしかれん研修会 平成17年7月22日(金)、29日(金)

講師：石川県立看護大学 精神看護学 北岡和代 先生

「この1年間の労」をお互いにねぎらいましょう！

〈ここでの約束事〉

1. ここで話すことは外に出しません。
2. お互いに批判・悪口は言いません。
3. 人の話は聴きます。
4. 決められた発言時間を守ります。
5. 話したくない場合はパスします。
6. 途中退席・途中参加もOKです。
7. ここにいる人はすべて平等です。

- 1) 役割分担：司会、時計係を決めましょう。
- 2) ここでの約束事の確認
- 3) この1年間の自分を「自画自賛」しましょう（1人2分間ずつ）。
 - ・お話を聴かせてもらった後は、皆で拍手しましょう。
 - ・（時計係：時間がきたら、話の途中でもストップしてもらう）
- 4) 本日のテーマ「今、ちょっと苦労していること」で話し合いましょう（1人2分間ずつ）。
 - ・お話を聴かせてもらった後は、皆で拍手しましょう。
 - ・（時計係：時間がきたら、話の途中でもストップしてもらう）
- 5) 意見交流の時間
 - ・時間がきたら、意見交流を切り上げ、まとめはせずに止める。

午後の部

各家族会からそれぞれの活動報告、個々に抱えている問題点等について発言して貰いました。

- ・能登町には資源が少ない。施設の法人化をきっかけに作ってゆきたいと考えている。
- ・会員数が増えない。
- ・会員の高齢化が問題。会費は出すけど出席できない。
- ・作業所の通所者は増えているが家族会員が増えない。
- ・行政と連絡を密にしてゆく必要がある。
- ・県連に入って、早期発見すれば治せることも分かった。みんながそういう知識を持つことが大切と思う。精神の病気を隠したがる家族や親族がまだまだ多い。
- ・一番の偏見者は家族だ。私達が病気を引き受けることが必要。
- ・会長のなり手がいない。会員のプライバシーを守ることも大事。
- ・賛助会をどのように運営しているか聞かせて欲しい。
- ・将来「おしゃべりサロン」を作れたらいいなあ。
- ・作業所を法人化すれば、家族会は運営主体でなくなるので、両者の関係は希薄になるのではないか。
- ・作業所へ通っている子の家族は、その人達のことについて勉強し福祉のために行動する家族会に積極的に入って欲しいと思う。

能登・加賀方面共、今から意見交換に入ろうという時に、予定時間が過ぎて終りとなり残念でした。両会場とも**会員数の減少、会員の高齢化**、が大きな問題として出ておりました。

今後、このような会を持って、互いに意見交換をし、よいところは参考にしながら、一緒に考えていくことが大切と思われます。

(研修会担当)

会員の声

この夏の雑感

くろゆり会 木村和子

「ほっと石川」2005年春季号の『知事の窓』に谷本知事が書かれているなかで、『～還暦のお祝いにと妻が赤いベストをプレゼントしてくれました。一瞬「えっ自分が」ととまどい、次の瞬間「超高齢社会の日本なら、自分の年齢の7掛けぐらいでちょうどいい」という知人の言葉を思い返し、「待てよ。60歳×0.7＝42歳か。まだまだ若いゾ」と…なんだかさらに元気がわいてくる気がしたのでした』

私は早速自分の年齢に7掛けし「まだ〇〇才～」と足取りも軽やかになった。

家族会員の高齢化(?)と云われているが、会合に出るたびに気迫にあふれた姿に、谷本知事の記事を思い出す。

「研修会」というと受動的になりがちだが能登・加賀地区の研修会は、ユニークなものだった。始めの各グループ毎の限られた時間

の中、初対面同士の話し合いと、昼食後、加賀地区の単会毎の報告を聞いていると、その裏に一人々々が挫折といらだちとが常に同居しながら、あきらめずにここまできているのだと感じた。とにかく、自分の家族・地域だけを見ていると考えが狭くなりがちだ。

重いものを少しずつ引き受けてもらい、また困ったときに、つかまるロープをたくさん用意しておくことが必要でないかと、単会の話を聞いた。

年齢が増すごとに、知恵を出しあうことで人と人との生き生きとしたつながりが、生まれてくるものでないかと。

毎月の例会で、議論が熱してきたときに「息子のおかげで……」と話される一会員の言葉も視点をかえる場となり、元気な源になっている。

我がまま

のぞみ会 大竹智之

- ・もし、子供が寛容の中で生きているのであれば、忍耐強くあることを学ぶでしょう。
- ・もし、子供が受け入れられて生きているのであれば、愛することを学ぶでしょう。
- ・もし、子供がよいと認められて生きているのであれば、自分自身を好きになることを学ぶでしょう。
- ・もし、子供が安心して生きているのであれば、自分自身と自分の周りのものに信頼することを学ぶでしょう。

(7月22日いしかれん研修会 講師：石川県立看護大学 北岡和代先生の資料より)

「もし、……」の文章から気付いた、「我がまま」についてわたしの思いです。

我がまま

誰もが我がままなのです。

他人の我がままには敏感で腹立たしく思うこともありますが、自分の我がままにはなかなか気付かないものです。

自分も我がままだなあと気付けば、共に生きられる。

会員の声

ある歌人の話

けやきの森 紺谷 徳子

吉野秀雄（1902～1967）という歌人のことについて書きたいと思います。私はこの人の歌が好きで長年、思い出したように取り出しては繰り返し読んでおります。

しかし、今日はこの歌のことではなく、息子さんの突然の発病に遭って、苦しみの中から一つの光明を見だしてゆく、この歌人の文章を紹介したいと思います。

1965年5月、歌人の長男が、ある日突然精神病の陽性症状を起こしたのです。

この息子さんは恋愛問題で悩んでいたらしいのですが、ある朝、自分の描いた油絵を軒下に山と積んで火を放ったのです。結局大事にはならず済んだのですが、足萎えの歌人にはどうすることもできず、4人のお巡りさんにしずめてもらい、保護留置のあと精神病院に送られたのです。

この時の心境を歌人はこう書いています。

『世間に不幸は無限に起こり、流行病・交通事故・海や山の遭難等、毎日マスコミが報道してもしきれないほどあるが、その一つが具体的に、こんな形でわが家にふりかかろうとは、夢にもしらなかった。わたしの心臓はまさにとまろうとし、わたしの脳裡にはさまざまな妄想がひらめいた。わたしの命がいま絶えたら、どんなによからう。いっそかれを殺し、自分も死んだら、始末がつきやすいのではなかろうか。自分も発狂し、精神病院でかれといっしょに暮らせないものだろうか。しかし、いうまでもなくできないことはできない。無力であるよりすべはない。第一せがれの不幸にまきこまれたからといって、自分だけの安逸をねがうなど、贅沢も無責任もはなはだしい。なんとしてもわたし自身がこの出来事を直視しなくてはならない。でも絶望しきったわたしに、それがはたして可能であろうか。』

『世に突発的な不幸は、連日無数にくりかえされている。わたしの経験など、ほんのちっぽけな一例にほかならないし、また不幸そのものが人生の真相で、幸福はむしろまぐれざいまいにすぎぬこともよくわかっているつもりだ。しかしいざ、それが自分のあたまにふりかかってきたとき、一わたしがげんに4年ごしの動けぬ病人だというせいもあって—

わたしは心臓がとまるほどおどろき悩んだ。わたしにはかねて称名念仏という恵みがあり、このたびこそ心の底からナムアミダブツを唱えつつ、どうやらしのぎをつけ、再び一段とつよく生きてゆこう、そして一日でも永く妻子のために力になってやろうと考えなおしたのであったが、その際のハンプルになりきったわたしの心に、これまでにない精彩をもってよみがえったのが、この、

ひとの幸福をともによろこび

ひとの不幸をともにかなしむ

ということばであった。』

（吉野秀雄著「やわらかな心」より）

この「ひとの幸福をともによろこび、ひとの不幸をともにかなしむ」という一見ありふれた、当然と思われる言葉ではありますが、自分の心の底をのぞいてみると、なかなか難しいことです。この歌人が、たいへんな苦しみの中で、謙虚にこのような心境になって行かれたことは、この人が志の高い人であったということでしょう。

この言葉こそ、この精神こそ、家族会活動の根底に据えたい言葉だと思います。

私はこの言葉を、我執の強いわが心の歪みを直す警策にして行きたいと願っています。



お知らせ

平成17年度北信越ブロック家族会 精神保健福祉促進研修会新潟大会

平成17年9月22日(木)・23日(金)

～新たな地域生活支援をめざして～

「障害者自立支援法のめざすもの」

第38回全国精神障害者家族大会 千葉大会

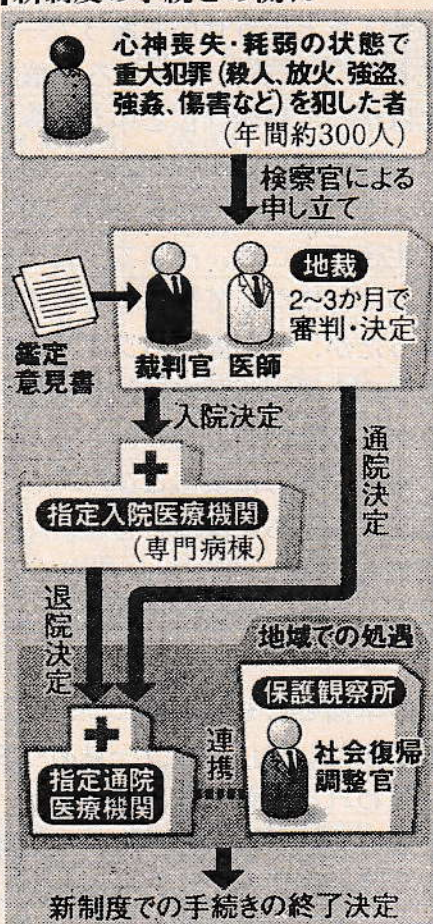
平成17年11月10日(木)・11日(金)

会場：幕張メッセ

〈大会テーマ〉

誰もがその人らしく地域で暮らしていくために

心神喪失者医療観察法に基づく 新制度の手続きの流れ



七院安た障
日のの害殺
読判高者人
断ま神をな
新のり喪、ど
聞難を失必の
よりし背者要重
や、に、療医に大
や、観じ犯
病裁察て罪
棟判法専を
の官一門犯
建がが病し
設加今棟な
のわ月にな
遅る一強ら
れ審五制心
な判日入神
どでに院喪
「障施失を
課害行せを
題者さ、理
山のれ手由
積処た厚に
の遇。い不
スを再治起
夕決犯療訴
めのにや
トる恐取無
とのれり罪
ながに組と
つつ特対む
た徴す新つ
だる制た
が社度触
七、会を法
月入の定精
十退不め神

障害者ふれあいフェスティバル

県産業展示館3号館

平成17年10月9日(日)

午前10時～午後4時

だしもの 作品展示コーナー
販売コーナー
体験コーナー
福祉相談コーナー など

今後予定している行事

- ・石川県と県議会に
精神障害者の福祉施策充実に関する
要望書を提出
平成17年10月中旬
- ・行政と病院長との懇談会
平成17年11月下旬



編集後記

- ・先日、山手線に乗り、入口付近で立っていたら、「あそこが、空いていますよ」と素敵な娘さんの声かけに「ありがとうございます、次の駅で降りますから」これだけの会話。帰宅してもその余韻が残る。
- ・「ここに余裕がなくなっているときってありませんか」「家族の中の日常の会話は？」北岡先生の「居場所づくり」いろいろ考えさせられた夏でした。(木村)
- ・今回は、長年にわたり石家連を陰になり日向になり支えて下さった顧問の菊知龍雄先生の文章で1頁を飾ることが出来、うれしく思っています。
- ・「会員の声」に載せる皆様の原稿を是非お願い致します。今回はとりあえず、編集委員3名が1遍ずつ載せることにしました。皆様の投稿をお待ちいたしております。(紺谷)
- ・恒常的に原稿締切り違反を重ねています。このため編集委員にご迷惑をかけている「こんな自分がいやだ」と悩んでいます。けれども寛容な委員によって務まっています。(大竹)